

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01235

研究課題名(和文) 唱導の場から見た日本古代中世文学の特質についての総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive research on Japanese classic literature through the Culture of Buddhist Preaching

研究代表者

牧野 淳司 (Makino, Atsushi)

明治大学・文学部・専任教授

研究者番号：10453961

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：日本の古代中世文学と唱導文化との関係性について、総合的な研究を進めた。唱導とは、仏教を説いて人々を導く行為である。説経師は弁舌を振るい、さまざまな物語を語ったが、教えを説くのに効果的な絵画や音楽、芸能も使われた。このような唱導文化が、日本の和歌や物語のほか、歌謡や能など、日本の古典文学に大きな影響を及ぼしていることを、各ジャンルの研究者の力を結集して、明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この数十年で、平安時代の末以降に書き残された唱導資料の発掘と研究が進み、唱導とそれに関係する諸文化(仏教儀礼とそれに関係する絵画や音楽、諸芸能)に光が当てられるようになった。これにより、唱導文化という側面から、日本の古典文学の性質を見ていくことが可能になった。本研究は、和歌・物語・歌謡・能など複数のジャンルの文学が唱導文化と深く関わりながら生み出されてきたことを明らかにした。これは、日本の古典文学が持つ性質を的確に理解していくための新たな道筋の一つを切り開いた意義を持つ。

研究成果の概要(英文)：Comprehensive research on the Inter-connections between classical Japanese literature and Buddhist Preaching (Shodo) Culture was conducted. In order to spread Buddhism, preachers wielded their eloquence and told various stories. They also used painting, music, and performing arts. By combining the efforts of researchers of various genres, we have shown that Buddhist Preaching Culture had a great influence on Japanese classical literature, including Waka Poetry and Monogatari(Tales) as well as Songs and Noh plays.

研究分野：日本文学

キーワード：唱導 古代文学 中世文学 法会 寺院資料 仏教儀礼 表白 講式

1. 研究開始当初の背景

長年にわたり続けられている各地の寺院資料調査が次々と成果を挙げる中、唱導(仏教を説き人々を導く行為)資料の紹介も相次いでいる。神奈川県立金沢文庫からは弁暁や湛睿の唱導資料が公刊された(神奈川県立金沢文庫編『尊勝院弁暁説草 翻刻と解題』勉誠出版 2013年、納富常天著『国宝 称名寺聖教 湛睿説草 研究と翻刻』勉誠出版 2018年)。天野山金剛寺の唱導書は、仏教儀礼や寺院の学芸活動に関わる資料と合わせて紹介された(後藤昭雄監修『天野山金剛寺善本叢刊 第一期・第二期』勉誠出版 2017年~2018年)。院政期に唱導の流派である安居院流を立てた澄憲については、国立歴史民俗博物館所蔵『転法輪鈔』の翻刻・解題が公にされた(牧野淳司・阿部美香・三好俊徳・筒井早苗・猪瀬千尋「国立歴史民俗博物館蔵『転法輪鈔』 翻刻と解題」『国立歴史民俗博物館研究報告』第188集 2017年)。すでに紹介されていたものも含めると、唱導資料の研究は質量ともに充実してきている。それに伴って、唱導とその文化を国際的に研究する動きも盛んである(林雅彦・小池淳一編『唱導文化の比較研究』岩田書院 2011年、松尾恒一編『東アジアの宗教文化』岩田書院 2014年)。学際的研究成果としては、文学・歴史学・思想史学・美術史学・民俗学の研究者が協力し、さらに複数の博物館と研究機関が連携することで、唱導を中心に据えた展覧会が実現した(国文学研究資料館「祈りと救いの中世」2018年10月~12月、神奈川県立博物館「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」2018年10月~12月、國學院大學博物館「列島の祈り」2018年11月~2019年1月、神奈川県立金沢文庫「顕われた神々 中世の霊場と唱導」2018年11月~2019年1月)。以上のように、唱導とその文化について、資料研究とともに、国際的・学際的研究が活況を呈している。

その一方、日本の古典文学研究をめぐる状況は必ずしも良好とは言えない。近代国民国家の学問としてスタートした「国文学」は、多くの古典「文学」を発見し、その魅力と価値を発信してきた。しかし、近年は古典「文学」に対する興味・関心が低下し、教育・研究の場でも軽視される傾向がある。このような状況に対し、「文学」研究の可能性を広げていくことが必要と思われた。そこで、唱導に注目した。日本の古代から中世の「文学」を唱導という観点から見直すことで、これまで見過ごされてきた日本の古典「文学」の新たな一面を見出せると考えた。そもそも唱導研究を先導してきたのは国文学研究者であったし、唱導と「文学」とが深く関係していることは、多くの先学が指摘するところである。それらの成果を引き継ぎつつ、最近の国際的・学際的唱導研究の成果も踏まえて、もう一度、古典「文学」に向き合うことを構想した。その際、歴史や宗教と切り離して「文学」を囲うのではなく、むしろそれらと重なり合うところにあるものとして、「文学」を新たに定位・評価していくことを目指すことにした。これが「文学」研究の可能性を広げることになる。ジャンルにとらわれず、和歌・物語・歌謡・能、それぞれの研究者がお互いに知見を寄せ合って、上記の課題に取り組むことにした。

2. 研究の目的

日本の古代から中世の文学について、唱導とその文化に注目することで、その特質の新しい一面を発見することを目的とする。国際的視野から研究と、隣接分野の成果を踏まえての研究を実施する。これにより、日本の古典「文学」の新たな可能性を見出す。

国際的視野については、これまで「日本」の文学として評価されてきた古典について、それが中国や朝鮮半島とどのような繋がりを持つか、唱導という観点を導入して探る。唱導とその文化は中国や朝鮮半島に共通して広がるものであり、各地域の「文学」は、唱導を土壌の一部として生み出されてきた側面を持つ。唱導とその文化が地域によってどのように変容しているか、そしてそこからどのような文学が生まれたかを見ることで、「日本」の古代中世の文学を東アジアの中で位置づけ直すことができる。

隣接する学問分野の成果を踏まえることについても、唱導に注目するところから進めていく。唱導とその文化をめぐって、文学・歴史学・思想史学・美術史学・民俗学の研究者が協力して、領域を越えた研究が進められている。これは、唱導とその文化の価値・魅力が、さまざまな学問分野で認められ始めたことを示す。したがって、日本の古典「文学」が、唱導とその文化と深い関係性を持つことを明らかにすることは、「文学」が歴史や思想、美術、民俗と深く関係していることを具体的に示すことになる。この時、古典「文学」は単に「文学」ではなくなる。歴史や思想、美術、民俗と重なり合ったものとして「文学」を捉え直すことで、「文学」の可能性を広げていくことを目指す。

3. 研究の方法

以下の3つの研究を同時並行で進めることで、上記目標の達成を目指す。

(1) 唱導資料の基礎的研究

多くの唱導資料について調査研究が進み、解題と翻刻も公にされてきた。しかし、調査ができ

ていない資料もまだ多く残されている。それらの資料の基礎的研究を行う。唱導資料を最も多く所蔵している神奈川県立金沢文庫では、研究分担者の協力を得て、唱導資料の調査と基礎的研究を実施する。また、その他の寺院や文庫に所蔵される唱導資料について、可能な範囲で調査を積極的に進める。また、未紹介の唱導資料の調査研究を進めるだけでなく、すでに公にされた唱導資料の読解を進める。近年、唱導資料の紹介が相次いでいるが、それらは十分に活用されているとは言いがたい。唱導資料の扱いに難しい面がある(実際の法会で使用されたものか、草案か、規範文集集なのか、資料の性質を見極める必要がある)ことは事実だが、文学以外の学問分野でも積極的に活用できるよう、資料の性質を明らかにしなければならない。注釈を付ける必要もある。価値が高い資料については、精密な読解を行って、多くの研究者が利用できるようにする。

(2) 唱導とその文化をめぐる国際的・学際的研究

唱導とその文化をめぐる国際的研究

中国・朝鮮半島の唱導をめぐる諸文化について、調査研究を実施する。中国仏教や朝鮮仏教の専門家を招いて研究集会を行うことで、東アジアに広がる唱導文化について知見を深める。唱導の技術と伝統は地下水脈のようにインドからアジアに広がっていることが予想される。それとの関係性で日本の古典文学を位置づけていく。具体的には、敦煌の唱導資料や中国で展開した俗講に目を向ける。なお、海外に所蔵される唱導資料の調査と研究をできる限り実施する。

唱導とその文化をめぐる学際的研究

唱導の場に関係する文物(絵画や造型物)の調査を進める。具体的な調査対象は、2018年度に実現した唱導をめぐる連携展示で出品されたものを中心に、範囲を拡大していく。連携展示では、国文学研究資料館、センチュリー文化財団、金剛院、長寶寺、国立歴史民俗博物館、慶應義塾図書館、上野学園大学音楽史研究所、宮内庁書陵部、龍谷大学ミュージアム、そのほか個人蔵の文物・資料が並べられたが、展示の際の簡略な調査は行われたものの、十分でないものもある。これらについて、関係諸分野(歴史学・思想史学・美術史学・民俗学)の研究者の協力を得て、調査と研究を進める。これにより、唱導とその文化の内実を精密に解明していく。

(3) 唱導から日本の古典文学の特質を探る研究

日本の古代から中世の「文学」について、唱導との関係性から、その特質を考究していく。以下のように、複数のジャンルの「文学」を考察対象とする。

『源氏物語』や『栄花物語』など平安時代の物語には、法会で講師が説経を行う場面など、唱導に関係する箇所がある。平安文学が、唱導の言葉や文化から吸収したものが何か、明らかにする。鎌倉時代以降では『平家物語』を中心に分析する。『平家物語』が唱導の言葉や技術を取り入れていることについてはすでに多くの指摘があるが、まだ考察の余地は残されている。『平家物語』がいかなる物語であったのかを考えていく際に、唱導が重要であることを示す。

古代から中世の和歌をめぐるのは、法会に関係して詠まれたものが複数ある。これらを分析することで、唱導とその場が和歌にどのような特質を付加することになったのかを明らかにする。

院政期から鎌倉時代の歌謡について、唱導の場との関係性からその特質を論じる。

鎌倉時代から室町時代の説話文学・物語草子について、唱導とその文化を視野に入れる立場から、その特質を追究する。

能をはじめとする諸芸能と唱導との関係性について、新資料も用いた発展的研究を実施する。

以上のように複数のジャンルにまたがって、日本の古典「文学」と唱導との関係性をめぐる研究を行う。これらは各ジャンルを専門とする研究分担者と協力して進めていく。お互いに視座や方法と資料を共有することで、日本の古典「文学」と唱導との関わりを包括的に解明していく。

4. 研究成果

(1) 唱導とそれに関係する資料について、基礎的研究を進めることができた。金沢文庫保管の千字文説草、江戸時代に唱導による教化を目的として作成された経典(正徳版『金光明最勝王経』)、大念仏寺所蔵の融通念仏縁起絵巻に関係する資料、後鳥羽院作『無常講式』、貞慶『舍利講式』、中世に展開した二十五三昧会で用いられた「六道釈」、弁暁の唱導資料、覚城院所蔵の安居院流関係資料、慶政『尊師講式』について、それぞれ論文が発表された。

(2) 唱導とその文化をめぐる国際的・学際的研究を行った。

唱導とその文化をめぐる国際的研究については、以下のような成果を得た。敦煌の唱導資料について、これを専門に研究している荒見泰史氏を招いて国際研究集会を開くことができた(交響する古代 12、2021年)。その成果は『古代学研究所紀要』(明治大学日本古代学研究所) 31号に掲載されている。また、中国仏教の研究者である船山徹氏と中国の唱導に関係する文物を発掘・研究している黒田彰氏を招いて、研究集会を開催することができた(「西域・中国からの水脈 仏典と翻訳・俗講」2021年)。その成果は『説話文学研究』57号に掲載されている。これにより、日本の古典「文学」が、東アジアに繋がる水脈から養分を得て成長している様相の一端を明らかにすることができた。なお、海外の諸機関に所蔵される唱導関係の文物・資料の調査については、諸事情(感染症 COVID-19 の流行)により、その多くを実現することができなかった。

唱導とその文化をめぐる学際的研究については、以下のような成果を得た。澄憲や弁暁が活躍した後白河院時代の文化の性質について多角的に見ていくため、美術史を専門とする増記隆介氏と和歌文学を専門とする中村史氏を招いてシンポジウムを開催することができた(「後白河院

時代の文芸と文化 唱導・和歌・美術」2021年)。その成果は『仏教文学』47号に掲載されている。これにより、澄憲・弁暁が行った唱導の意義を、後白河院時代の文化・文物の中で評価していく道筋を得ることができた。また、源信が創めた二十五三昧会が変容を遂げながら中世に盛んに行われる中で作成された数種の「六道釈」について、美術史を専門とする山本聡美氏を招いてシンポジウムを開催することができた(「六道語りの中世」2022年)。その成果は『仏教文学』48号に掲載されている。これにより、「六道釈」が安居院流の唱導と密接に関わりながら成立してきたことが明らかにされただけでなく、聖衆来迎寺本『六道絵』の背後には「六道釈」とその儀礼があったことも示された。また、『北野天神縁起』などの絵巻や『平家物語』『建礼門院右京大夫集』などの文芸テキストを理解する際にも、「六道釈」が有効であることが示された。唱導とその儀礼の影響が中世の文物と「文学」に多大な影響を与えていることを具体的に示すことができた。

(3) 唱導から日本の古典「文学」の特質を探る研究について、以下のような成果を得た。

『万葉集』と唱導との関係性について、「しぐれの雨」の歌(巻8・1594番歌)と「秋萩の」の歌(巻10・2205番歌)を手掛かりに分析を行った。前者は題詞から維摩講でうたわれた歌であることが分かり、後者は近年発見された木簡から法会との関係が指摘されている。二つの歌の表現を合わせて分析することにより、法会の場でうたわれることにより、歌の表現に深みが増していった様子が分かることを示した。唱導の場が歌の成長に重要な役割を果たした可能性があると指摘した。

『古今和歌集』と唱導との関係性について、安倍清行と小野小町の贈答(恋歌2、556・557番歌)を手掛かりに分析を行った。この贈答は詞書から、真静法師の唱導を契機として詠まれたものであることが分かる。和歌の表現が唱導の言葉をたくみに活かして作り上げられていることを示した。これを通して、唱導説経の場が和歌の言葉と表現を豊かにしてきたことを明らかにし、古代における和歌の展開にとって、唱導とその言葉は無視できない意義を持つ可能性があることを述べた。

『源氏物語』については、平安時代末期から行われるようになった「源氏供養」に着目した。「源氏供養」は夢に現れた紫式部を供養することで仏教と縁を結ぶ儀礼で、その創出には唱導の名手であった澄憲が関与している。このような夢に死者が現れたことを契機に行う唱導の儀礼が発生する機制は、『源氏物語』内部にすでに含まれていたことを明らかにした。さらに、「源氏供養」という営みそのものが、新たな素材となって、新しい「文学」を生み出していく様相を明らかにした。唱導の儀礼が「文学」を生み出していく過程を記述できた。

『平家物語』については、寺院文化圏で成立した延慶本で語られる道宣(中国の律僧)の物語を分析した。道宣の物語が日本の唱導世界から発生したことは既に指摘されているが、中国の『太平広記』とも類似性を持つことが分かった。その上、敦煌の唱導資料である「隋浄影寺沙門惠遠和尚因縁記」にまで遡る話型を保持していることも分かった。延慶本が、東アジアに広がる唱導世界を背景に成立していることの証左を新たに一つ加えることができた。また、『平家物語』については、合戦の語り方に注目するところからも、物語が唱導の影響を強く受けていることを明らかにすることができた。すなわち、澄憲や弁暁ら、後白河法皇の周辺で活動していた唱導僧が、治承・寿永の内乱について唱導の場で語った言葉や論理が、『平家物語』における内乱の語り方の根本を規定していることを指摘した。さらに、『平家物語』冒頭の「祇園精舎」の章段は、中世に作成された「六道釈」とその儀礼を背景にして生み出されていることを明らかにした。「六道釈」は源信が創始した二十五三昧会が中世に多様に展開する中で生み出されてきた唱導テキストと言えるが、『平家物語』「祇園精舎」の文章は、「六道釈」とその儀礼文化を背後に置くことで正確に理解できる。「六道釈」についてはその基礎的研究が公になり、『平家物語』以外の中世の諸文芸、さらには絵画テキストにまで、豊かな物語・思想・イメージを供給し続けていたことも示された。

歌謡・説話・物語草子・能と唱導との関係性については、研究分担者の協力により、数多くの成果を得ることができた。歌謡・音楽とその言葉については、唱導を含む仏教儀礼との関係性を体系的に論じた著書を手にとることができるようになった。説話については、貞慶に係る説話や物語の生成を、唱導との関係性から描く論文を複数得ることができた。湛睿の説草と『発心集』や『唐物語』についての論文も発表された。なお、兼好の著作について、法会との関係から読解する研究成果を得ることができた。物語草子については、『子やす物語』『子易の本地』『酒呑童子絵』について、詳細な研究成果を得ることができた。能についても、複数の成果を得ることができた。特に高橋悠介編『宗教芸能としての能』では、『江口本聞書』『春日龍神』『楊貴妃』『重衡』などについて、唱導や講式との深い関係性が指摘されている。

現在までに、唱導資料はかなりの数が紹介されてきたが、未紹介のものが多く残されているのも事実である。それらは文学だけでなく、歴史学・思想史学・美術史学・民俗学など関連諸領域にとっても、価値の高いものである。今後、それらの研究を学際的に進めていくことが必要だが、本研究はその動きに勢いを付ける意義を持つと言える。本研究で試みたような国際的・学際的研究により、唱導とその文化が今後ますます脚光を浴びることが予想される。また、唱導と「文学」との関係性については、本研究で全体を論じることができたとは到底言えない。しかし、唱導に注目することが、「文学」の可能性を広げるための一方策として有効であることは示すことがで

きたと考える。今後も、唱導の観点から「文学」を位置づけ直していく試みが継続していくことが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計49件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 牧野淳司	4. 巻 32
2. 論文標題 唱導の場から生まれた和歌 『古今和歌集』の安倍清行と小野小町の贈答をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 古代学研究所紀要（明治大学日本古代学研究所）	6. 最初と最後の頁 右1～14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 牧野淳司	4. 巻 48
2. 論文標題 シンポジウム「六道語りの中世」コメント	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 46～50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧野淳司	4. 巻 -
2. 論文標題 （コラム）貞慶と澄憲	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 阿部泰郎・楠淳證編『解脱房貞慶の世界』（法蔵館）	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧野淳司	4. 巻 49
2. 論文標題 謀叛の輩を追討して浄土に導く 後白河法皇と弁暁・澄憲の戦争	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部美香	4. 巻 437
2. 論文標題 儀礼本尊としての六道絵 六道釈から読み解く聖衆来迎寺本六道絵	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術研究	6. 最初と最後の頁 31～44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部美香	4. 巻 437
2. 論文標題 道釈資料三題 仁和寺本『六道釈』・青蓮院本『六道講式』・都率谷所伝本『六道式』 翻刻	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術研究	6. 最初と最後の頁 45～57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部美香	4. 巻 48
2. 論文標題 六道釈が導く六道語り その主体と『往生要集』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 19～32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 58
2. 論文標題 伝貞慶編『舍利勘文』小考	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 斯道文庫論集	6. 最初と最後の頁 209～246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻
2. 論文標題 湛睿説草と『発心集』『唐物語』	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『古典文学研究の対象と方法』（花鳥社）	6. 最初と最後の頁 547～573
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貫井裕恵	4. 巻
2. 論文標題 兼好法師がみつめた中世の法会	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『法会への招待』（神奈川県立金沢文庫展覧会図録）	6. 最初と最後の頁 78～82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合博志	4. 巻
2. 論文標題 覚城院蔵『安居院憲基式口決聞書』の筆録者忍宗について・再考 『徒然草』第百九十九段の行宣と兼好の関係に及ぶ	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『寺院文献資料学の新展開 第2巻 覚城院資料の調査と研究』（臨川書店）	6. 最初と最後の頁 121～151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恋田知子	4. 巻 123 1
2. 論文標題 『子やす物語』考—諸本と典拠—	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 藝文研究	6. 最初と最後の頁 43～59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 恋田知子	4. 巻 58
2. 論文標題 一七世紀後半の絵巻と女性－『子易の本地』を例として－	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 4～14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真麻理	4. 巻 68
2. 論文標題 酒吞童子絵の水脈 弥勒信仰と物語の圏域	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中世文学	6. 最初と最後の頁 24～34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴佳世乃	4. 巻 382
2. 論文標題 慶政『尊師講式』を読む	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書	6. 最初と最後の頁 37～43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小島裕子	4. 巻 57
2. 論文標題 西域、流沙の契り 東大寺「四聖」の源流を求めて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 143～153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島裕子	4. 巻 29
2. 論文標題 江戸期における『金光明最勝王経』の開版 蘭方医吉永升庵の偉業と弁才天信仰	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 鶴見大学仏教文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 123～174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 牧野淳司	4. 巻 -
2. 論文標題 延慶本『平家物語』第二本（巻三）「法皇御灌頂事」にある道宣律師と韋茶天の物語について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈 別巻』汲古書院	6. 最初と最後の頁 235-260
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧野淳司	4. 巻 31
2. 論文標題 延慶本『平家物語』にある道宣律師の物語について（続論） 敦煌の「隋浄影寺沙門惠遠和尚因縁記」を視野に入れた考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代学研究所紀要（明治大学日本古代学研究所）	6. 最初と最後の頁 23-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 265
2. 論文標題 『江口本聞書』 初期の謡曲注釈書とその伝来	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア遊学265「宗教芸能としての能楽」勉誠出版	6. 最初と最後の頁 241-252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合博志	4. 巻 265
2. 論文標題 能における宗教関係語句一斑 《放下僧・春日龍神・楊貴妃・草子洗・三輪》について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア遊学265「宗教芸能としての能楽」勉誠出版	6. 最初と最後の頁 152-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 猪瀬千尋	4. 巻 -
2. 論文標題 八条女院の一筆大般若経・五部大乘経 魔との対峙	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近本謙介編『宗教遺産テキスト学の創成』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 321-338
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 猪瀬千尋	4. 巻 265
2. 論文標題 能《重衡》の表現と思想 「寒林に骨を打つ霊鬼は」の句をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア遊学265「宗教芸能としての能楽」勉誠出版	6. 最初と最後の頁 138-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部美香	4. 巻 -
2. 論文標題 宣陽門院の宗教空間におけるほとけとことば - 東寺西院御影堂の中世的発展と貞慶の舍利講式をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近本謙介編『ことば・ほとけ・図像の交響 - 法会・儀礼とアーカイヴ』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 159-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧野淳司	4. 巻 15
2. 論文標題 古代の法会でうたう歌 「しぐれの雨」の歌と「秋萩の」の歌から考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化継承学論集（明治大学大学院文学研究科）	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 牧野淳司	4. 巻 30
2. 論文標題 紫式部の亡霊 唱導と死者の夢	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代学研究所紀要（明治大学日本古代学研究所）	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 貫井裕恵	4. 巻 45
2. 論文標題 歴史学からみた「千字文説草」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 45
2. 論文標題 千字文説草とその特色 亡息・亡息女供養の説草を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 55
2. 論文標題 貞慶をめぐる説話と律院 「異砂記」・狛行光春日靈験譚	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 57-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島裕子	4. 巻 26
2. 論文標題 江戸期正徳版『金光明最勝王経』とその信仰 井伊直治願経、訓読、浄厳の陀羅尼梵音のことなど	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鶴見大学仏教文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 79-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部美香、高岸輝、阿部泰郎、神崎壽弘	4. 巻 961
2. 論文標題 融通念佛宗総本山 大念佛寺所蔵融通念佛縁起絵巻資料集成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学苑	6. 最初と最後の頁 227-362
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部美香	4. 巻 48
2. 論文標題 九相図遡源試論 醍醐寺焰魔王堂九相図と無常講式	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 昭和女子大学女性文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 牧野淳司
2. 発表標題 六道積と『平家物語』「祇園精舎」
3. 学会等名 軍記・語り物研究会2023年度大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 牧野淳司
2. 発表標題 謀叛の輩を追討して浄土に導く 後白河法皇と弁暁・澄憲の戦争
3. 学会等名 仏教文学会2023年度大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 幽霊能成立の宗教的背景
3. 学会等名 国際ワークショップ「日本芸能史研究の新天地 宗教と芸能の相関を問い直す」、フランス共和国・コレージュ・ド・フランス（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 日本中世の地獄見聞譚と唱導
3. 学会等名 公開シンポジウム「東」と「西」の死後世界表象 煉獄と地獄を中心に」（成城大学）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 柴佳世乃
2. 発表標題 法会における 声 読経と唱導
3. 学会等名 金沢文庫連続講座 「法会への招待」(神奈川県立金沢文庫)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柴佳世乃
2. 発表標題 仏教儀礼の音曲とことば 唱導と文学
3. 学会等名 台湾大学第10回全国大学院生ワークショップ「人文と社会科学との対話の日本研究」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 猪瀬千尋・中村文・増記隆介
2. 発表標題 シンポジウム「後白河院時代の文芸と文化 唱導・和歌・美術」
3. 学会等名 仏教文学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小島裕子・船山徹・黒田彰
2. 発表標題 シンポジウム「西域・中国からの水脈 仏典と翻訳・俗講」
3. 学会等名 説話文学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部美香・山本聡美・阿部泰郎
2. 発表標題 シンポジウム「六道語りの中世」
3. 学会等名 仏教文学会例会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 阿部泰郎監修、佐藤愛弓・牧野淳司編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 -
3. 書名 日本中世の宗教世界	

1. 著者名 神奈川県立金沢文庫編（貫井裕恵編集・執筆、高橋悠介執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 神奈川県立金沢文庫	5. 総ページ数 96
3. 書名 中世寺院の書物 聖教とのかたち（神奈川県立金沢文庫展覧会図録）	

1. 著者名 神奈川県立金沢文庫編（貫井裕恵企画・執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 神奈川県立金沢文庫	5. 総ページ数 96
3. 書名 兼好法師と徒然草 いま解き明かす兼好法師の実像（神奈川県立金沢文庫展覧会図録）	

1. 著者名 柴佳世乃	4. 発行年 2024年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 784
3. 書名 仏教儀礼の音曲とことば 中世の 声 を 聴く	

1. 著者名 高橋悠介編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 宗教芸能としての能楽	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	阿部 美香 (Abe Mika) (10449093)	名古屋大学・人文学研究科・共同研究員 (13901)	
研究分担者	猪瀬 千尋 (Inose Chihiro) (10723653)	金沢大学・歴史言語文化学系・准教授 (13301)	
研究分担者	高橋 悠介 (Takahashi Yusuke) (40551502)	慶應義塾大学・斯道文庫(三田)・准教授 (32612)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	貫井 裕恵 (Nukui Hiroe) (40782868)	神奈川県立金沢文庫・学芸課・学芸員 (82720)	
研究分担者	落合 博志 (Ochiai Hiroshi) (50224259)	国文学研究資料館・研究部・教授 (62608)	
研究分担者	齋藤 真麻理 (Saito Maori) (50280532)	国文学研究資料館・研究部・教授 (62608)	
研究分担者	恋田 知子 (Koida Tomoko) (50516995)	慶應義塾大学・文学部（三田）・准教授 (32612)	
研究分担者	柴 佳世乃 (Shiba Kayono) (60235562)	千葉大学・大学院人文科学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	小島 裕子 (Kojima Yasuko) (70649780)	鶴見大学・仏教文化研究所・特任研究員 (32710)	
研究分担者	海野 圭介 (Unno Keisuke) (80346155)	国文学研究資料館・研究部・教授 (62608)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 交響する古代13（明治大学日本古代学研究所）	開催年 2022年～2022年
----------------------------------	--------------------

国際研究集会 交響する古代12（明治大学日本古代学研究所主催）	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 交響する古代11（明治大学日本古代学研究所主催）	開催年 2020年～2020年

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------